

「テスト分離」への道

IT業界共通のシステム開発に関係する社会情勢の変化として、

- **ITシステム開発要員の老齢化**
- **終身雇用の減少**
- **開発ベンダの多様性（オフショア開発なども含まれる）**

などの背景から、

- **ITシステムの有識者不足**
- **システムの効率的な開発・運用への影響**
- **品質に対する懸念**

などの課題が発生しているというお客様の声をよく耳にします。

本日はそれらの課題を解決するひとつの方策として、システム開発における「テスト分離」・「第三者テスト」の導入について専門知識と経験豊富なテストスペシャリストによる座談会をお届けします。

スピーカー紹介



大手ITベンダーにて、約38年の製品開発（SWエンジニア）およびITシステム開発（ソフトウェアテスト事業）を経験後、2022年2月SHIFTに参画。

金融サービス部門にてお客様支援の傍ら、ライフワークのソフトウェアテスト事業の拡大の一環として「欠陥分析サービス」を立ち上げる。
また、我々自身すべてのメンバーに、SHIFTのもつテストオファリングをよく知ってもらい、お客様のニーズに応じたご支援ができるよう活動中。

Executive Test Specialist

山腰 直樹 (やまこし なおき)



プロフィール ～中村 富貴～

その常識、変えてみせる。 **SHIFT**



独立系ソフトウェア開発ベンダーを経て、大手ITベンダーで約25年、テスト計画・推進や品質保証・分析のプロジェクトを経験後、2023年1月SHIFTに参画。

現在は、SHIFTの技術・資産を活用し、テスト計画・推進、テスト設計／プロセスの整備など、システム構築～保守までを見据えた、お客様プロジェクトの品質向上に向けてご支援中。

好きなこと: バイオリン演奏、猫と遊ぶこと

株式会社SHIFT
サービス&テクノロジー本部 金融サービス部

Test Architect

中村 富貴 (なかむら ふき)



「テスト分離」への道

そもそもですが・・・

「テスト分離」とか 「第三者テスト」

って何なんでしょう？

「テスト分離」とは

システム開発において、関係者以外の独立した第三者による審査や評価を行うことです。

従来のプロセス

全ての工程を開発チームが担当



要件定義

外部設計

内部設計

製造・UT

結合テスト

システムテスト

統合テスト

第三者テスト

設計・開発

不具合対応

テスト計画・テスト設計


テスト実施



では、「テスト分離」って

世の中での実情はどうなんでしょう？

業種（製品開発・アプリ開発）、日本と欧米で異なるんです。

	製品のテスト	企業アプリのテスト
日本	 開発組織と独立したQA組織	開発チームがそのままテストを実施
欧米		開発ベンダーと独立したテストベンダー テストベンダーによるブラックボックステスト

では、「テスト分離」すると

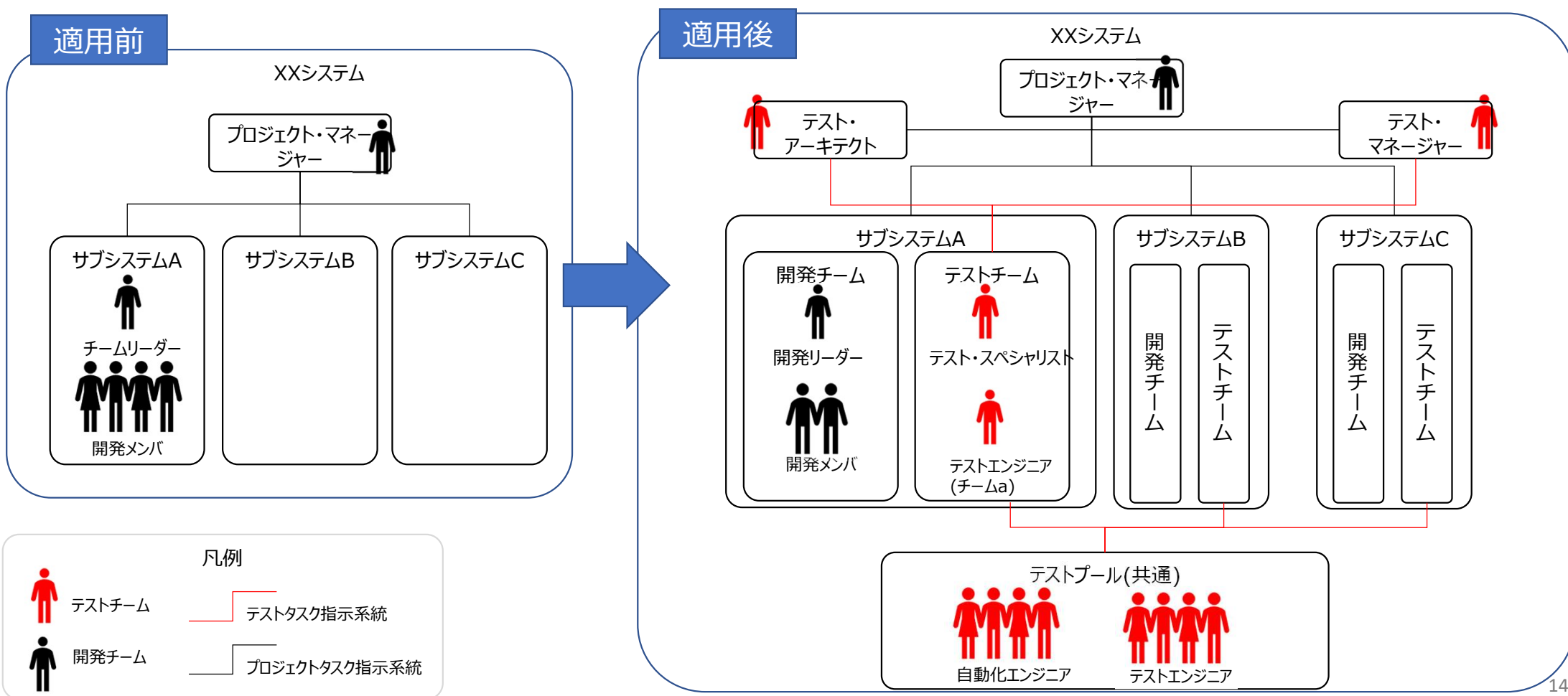
どんないいことがあるんでしょう？

開発者から、検証作業を分離すると、こんないいことがあるんです。

#	メリット(例)	アプローチ
1	検証ノウハウの蓄積	プロセス・テストベース整備、ベストプラクティスの共有
2	テスト品質の向上	検証の効率化、品質の見える化、プロセス横展開
3	属人性の排除	ドキュメント品質向上、検証の見える化、作業分担
4	作業効率化	専門スキル集約、ツール導入
5	コスト削減	作業効率化、リソース配分の適正化、障害の早期発見

「テスト分離」は最終的には
どのような形になるのですか？

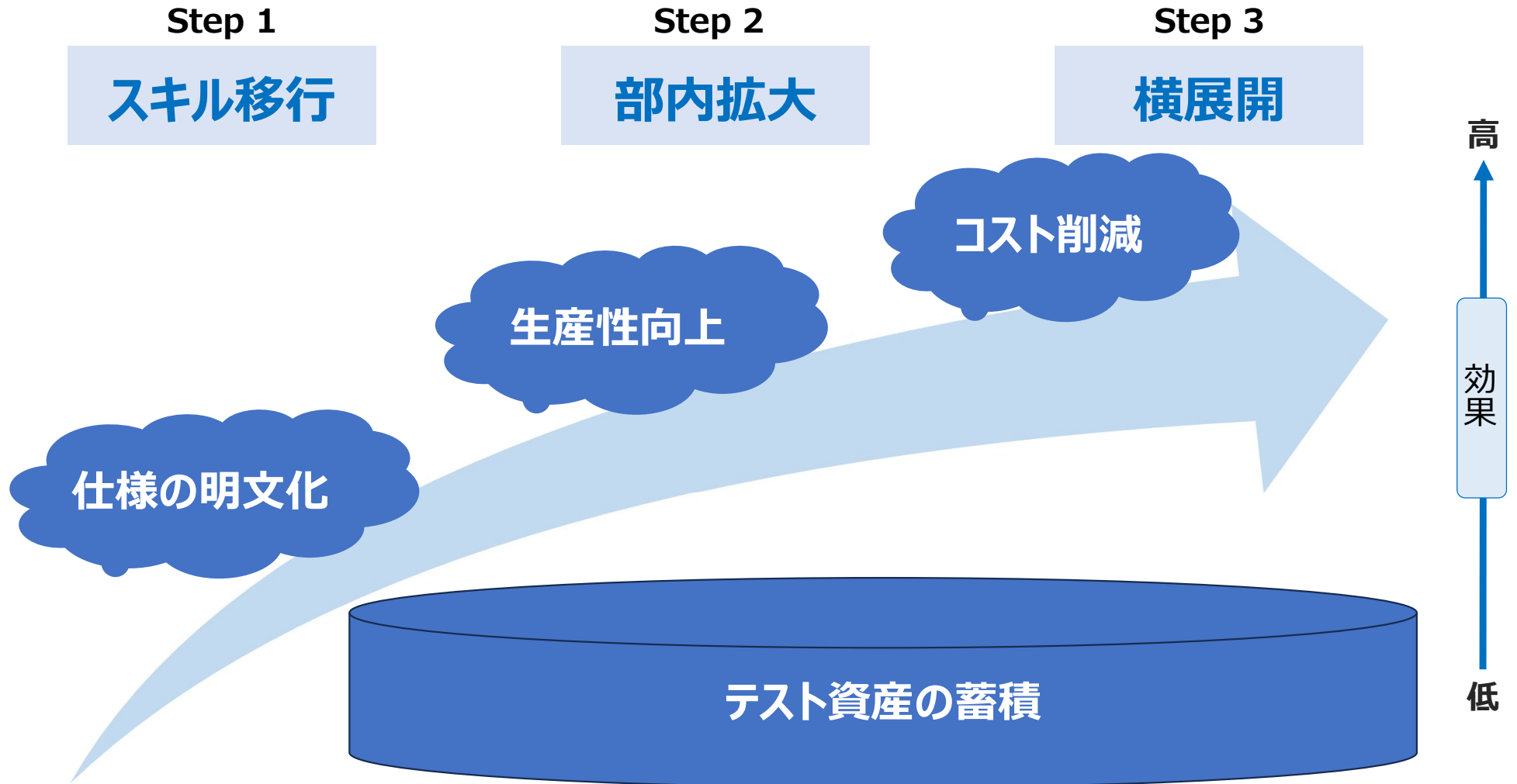
最終形の1つとして、Test CoEと呼ばれる体制があります。



その「Test CoE」には

どのようにたどり着けるのでしょうか？

一朝一夕でできるものではなく、段階的につくります。



メリットの多い「テスト分離」を成功させるためには、
どのような点に注意して進めるべきでしょうか？

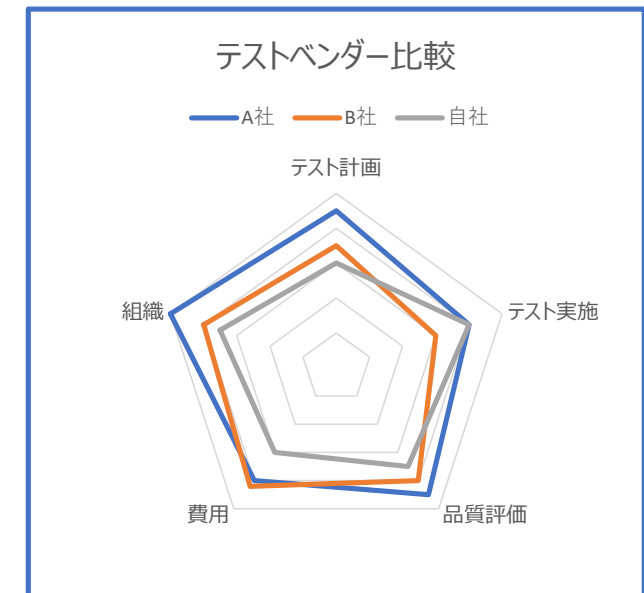
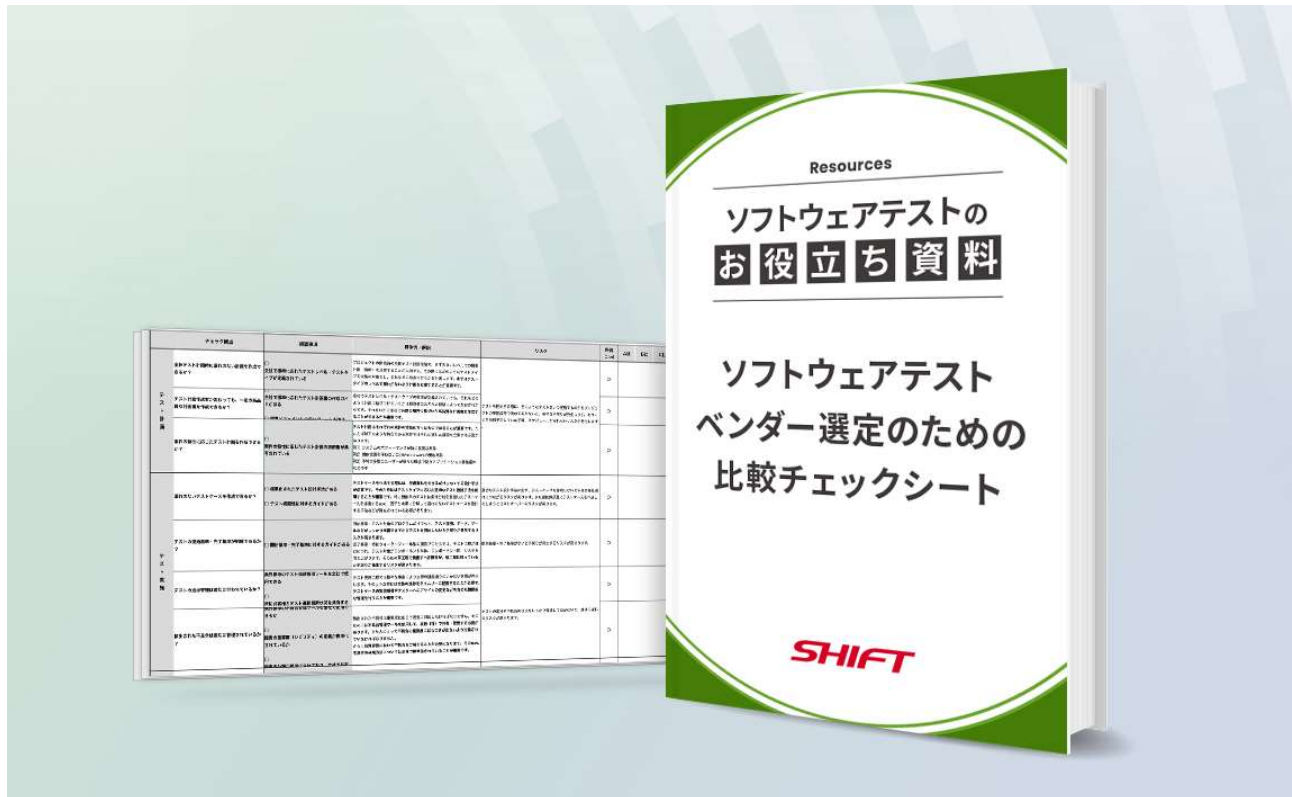
以降の過程で予測される課題に対して、以下のような取組みが重要です。

#	課題	アプローチ(例)
1	<ul style="list-style-type: none"> 費用と時間がかかる 計画通りに進まない 	対象や適合度を調査・検討し、フィジビリティを精査する
2	<ul style="list-style-type: none"> テスト優先度に対する認識の不一致 	障害発生時のリスクや、検証に求められる精度、に対し共通認識をもつ
3	<ul style="list-style-type: none"> 実現性やメリットが理解されにくい 協力と相互理解の欠如、コミュニケーションの不足 いままでのやり方が変えられない 	関係者間の十分な意思疎通、実現に向けた協議を行う

では「テスト分離」を成功させ、
将来のメリットを享受するためには、
どのようなベンダーと組めばいいのでしょうか？

お客様の実情に合ったテストベンダーを、客観的に判断することが重要です。

以下の判断基準がお役に立ちます。



<https://service.shiftinc.jp/resources/7927/>

ご質問コーナー

その常識、変えてみせる。 **SHIFT**

いかがでしたでしょうか